



走る! 戦う! 働く!

北京市で今年も「世界ロボット運動会」が開催。ロボットたちが熱戦を繰り広げた。記録更新から実用化への進化まで、注目シーンを一気に振り返ろう。

第2回 世界ロボット運動会ダイジェスト

第2回世界人形ロボット運動会

2026年8月22日(土)～26日(水)、北京市のスピードスケート競技場「国家速滑館」で開催された。人型ロボットが陸上や武術などの競技に加え、工業、家庭サービス、公共応急など実用場面での能力も競う、国際総合型の科学技術スポーツ大会だ。

国際的な大会に

運動会は6大陸・16カ国から666チーム、計2056台のロボットが参加。中国国内からは157社、200の大学・研究機関が集まり、日本、米国、ドイツなど海外勢も参戦した。

51種類の競技で競った

スポーツ系 30種目

- ・100～1500m走、リレー
- ・400m障害走、走り幅跳び
- ・サッカー、卓球、重量挙げ
- ・自由格闘、武術、太極拳
- ・チアダンス、ストリートダンス
- ほか



実用系:21種目

- ・ホテル:ベッドメイク、清掃、備品補充など
- ・飲食:食品加熱、飲料制作、外売り梱包など
- ・オフィス:会場設営、印刷、シュレッダーなど
- ・手先の器用さ:積み木、ピンセットで豆つまみ、ケーブル接続など



一方、残る21種目は、実際の仕事や生活を想定した実用系競技だ。ホテルでのベッドメイクや清掃、飲食店での食品加熱や飲料制作、オフィスでの印刷やシュレッダー作業など、求められる動きはグッと日常的になる。さらに積み木やピンセットを使った豆つまみ、ケーブル接続など、手先の細かな制御を競う種目も用意された。速く走るだけなら目を見張る進化を遂げたロボットも、物を正確につかみ、周囲を判断しながら仕事をこなすとなると話は別。スポーツ競技で身体能力の限界に挑み、実用競技で社会進出への課題を探る。この2つを同じ舞台で競わせることで、人型ロボットの「できること」と「まだ苦手なこと」が浮かび上がる。華やかな記録の裏側に、実用化に向けた現在地が見える大会となった。

実用化への現在地

ただし、この大会はロボット版運動会として楽しむだけのイベントではない。全51種目のうち、スポーツ系は30種目。走る、跳ぶ、蹴る、戦うといった動作を通じ、速度やバランス、姿勢制御、複数台での連携など、人型ロボットに必要な基本性能を実戦形式で試している。

北京市の「国家速滑館」で8月22日(土)～26日(水)、世界各地から人型ロボットが集結した。「第2回世界人形ロボット運動会」には6大陸・16カ国から666チーム、計2056台が参加。100m走からサッカー、自由格闘、ダンスまで、人間の運動会さながらの競技で能力を競い合った。転倒しても立ち上がり再び走り出す姿など、思わず応援したくなる場面も大会の見どころだ。

走って戦って働くロボット

大会ダイジェスト



100m走で大記録

100m大型組決勝では「天驕隊」率いる「天工Ultra」が8秒64を記録して優勝。予選の9秒39から記録を更新し、人間の世界記録9秒58も数字上で上回った。

総合トップ:上海・智元机器人

上海のロボット企業「智元(AGIBOT)」が金18、銀16、銅12の計46個を獲得。金メダル数、総メダル数ともに大会トップとなった。特に実用競技や手先の器用さを競う種目で強さを見せた。



自由格闘40KG級



サッカーのエキシビション



家事を行うロボット



ロボットと人の共演も

その熱気は中国国内だけでなく、ロイターやAP通信など海外メディアも大会を報道し、爆速で走る姿から格闘、家事まで、さまざまな映像が世界へ発信された。すごい記録だけでなく、転倒や細かな作業への苦戦まで含めて注目されるのも、この大会ならではの。人型ロボットの「今できること」を世界中が見守るイベントへと育ちつつある。

世界が見つめたロボットの熱戦

会場となった「国家速滑館」には多くの観客が訪れ、100m競走や自由ボクシング、サッカーなどでは大きな歓声が上がった。開幕式では多数のロボットによるパフォーマンスや人間との共演も披露され、最新技術を一般の人が身近で楽しめる巨大なショーケースとしても注目を集めた。

一方で、転倒したりゴール後に止まり切れなかったりと、まだまだ発展途上らしい場面も。完璧ではないからこそ、ロボットが懸命に走り、戦い、立ち上がる姿にはどこか応援したくなる魅力がある。記録だけでなく、そんな予測不能な動きも大会を盛り上げた。

第2回大会で最も象徴的だったのが、100m競走の進化だ。前回大会の優勝記録は21秒50だったが、今回は「天工Ultra」が8秒64を記録。わずか1年で12秒以上も縮め、人間の世界記録9秒58を数字上で上回った。400m競走や1500m競走などでも記録更新が相次ぎ、人型ロボットの走行速度や姿勢制御が急速に向上していることを印象付けた。

1年で激変したロボットの走り